

第5学年 研究のまとめ

	1 指導計画の工夫	2 指導過程及び指導方法の工夫	3 評価の工夫
G 3	<p>○レディネステストで実態を掌握し、必要な部分は単元に入る前に復習をさせて児童がスムーズに学習に入れるようにした。</p> <p>○学習の計画、単元のまとめの時間を十分に確保できるように指導計画を立てた。</p> <p>▲個に応じたの補充学習に取り組む時間が足りず、個別指導が十分にできない場合もあった。</p> <p>▲新出事項以前の段階でつまずいて子どもに対して、既習事項の復習にかかる時間が多く必要であった。</p>	<p>○児童の実態、学びの特性に合わせて、指導過程の内容、構成、時間配分などを工夫した。</p> <p>○具体物や数直線の作図などを取り入れて子どもの思考を助けるようにした。</p> <p>○個別学習の時間を十分に確保し、学習の習熟、定着を図った。</p> <p>○目標をスモールステップに分け、つまずきに対応できるようにしてきた。</p> <p>▲個人差が大きくなってきており、「自分の考えをまとめてわかりやすく発表する」「話し合って練りあう」などの学習は数多くできなかった。</p> <p>▲具体物の操作や数直線の作図などを基に考えさせるようにしてきたが、問題の解き方を自分で考えさせることは難しかった。まずは教師側から解き方を提示し、それを理解させる必要があった。</p>	<p>○段階をスモールステップに分け、形成的な評価を多く取り入れることで、個に応じた支援ができた。</p> <p>○単元の学習が終わった後も、宿題等で指導を継続しながら定着を図った。</p> <p>▲学習カードや学習の感想を書かせるなどの活動の時間はなかなかとれなかった。</p> <p>▲新出事項だけでなく、既習事項の段階でつまずいている子どもに対して、どの部分が障害となっているかを見きわめ、適切に支援をしたり課題を与えたりすることができなかった。</p>
G 2	<p>○学習の定着をはかるために練習問題に多く取り組ませた。</p> <p>▲順番に練習問題を出していくが、学習後半になり、様々な問題が混入してくると、混乱してしまう児童が見られる。</p>	<p>○3色ペンを使って問題を整理し、数直線で問題を見えるようにすることで、児童は自力解決しようという気持ちが出て、意欲的に取り組むことができた。</p> <p>○自分で考えた解き方を、みんなの前で発表することを多く体験することを通して、発表することに抵抗がなくなってきた。</p> <p>▲数直線が書けるようになるまで時間がかかった。書けるようになった数直線も時間が経つと書けなくなる。</p> <p>▲3色ペンで問題を整理するが、十分整理できない児童への手だてはどうあればよいか。</p>	<p>○授業中の発表や机間指導の際の考え方の把握・評価のために「座席表」を利用した。（評価だけでなく授業の中で指名して、考え方を発表する際や多様な意見を引き出すためにも効果的であった。）</p> <p>○形成的評価も含め、単元の半ばで問題に取り組ませ、課題の把握・支援に生かすようにした。</p> <p>▲授業の最後に学習感想を書く時間をなかなか設けられなかった。自分で反省・まとめを書かせ、評価に生かすようにしていきたい。</p>

G 1	<p>○既習単元の復習として、選択学習を行った。基礎・基本の問題に取り組む「ふり返りコース」と、教科書のチャレンジ問題などに取り組む「発展コース」に分け、2つのグループの枠をはずして行った。この学習を通して、もう一度基礎・基本を確かめることができ、子どもも満足した様子うかがえた。</p> <p>▲殆どの子どもが発展コースを希望する結果となったので、どのようなコースを設定するか、児童の実態を踏まえ検討していきたい。</p> <p>○単元の導入では、子ども同士の練り上げの時間をしっかり取るように工夫した。この活動を続けるうちに、自分の意見をもったり他の意見を聞いたりすることができるようになってきた。また、導入に時間をかけた分、習熟にはあまり時間をかけないようにして調整した。</p>	<p>○自分なりの表現方法で考えたことを発表する機会を多くもたせた。(ペア学習)</p> <p>○年間通して、数直線図を使った指導を行うことで、自力解決する際に、その成果が見られる。</p> <p>▲作図や作業が伴う学習では、スピードや理解力の個人差が大きくなる。そのため、レディネステストから事前に実態を把握して、座席を考慮するなどの工夫が必要である。</p>	<p>○座席表を利用し、一人一人の考えを見取るよう工夫した。また、授業後に感想を書かせることで、評価に生かすようにした。</p> <p>▲30人の考えを見取るには、かなりの時間がかかってしまう。机間指導にあまり時間をかけずに、子どもの考えを見取る方法を工夫する必要がある。</p>
--------	---	---	--

○ 成果

▲ 課題